

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

## No. 7 オンラインによる文化・言語交流プログラム

実施時期：令和4年9月～11月

任用団体名：京都府

### 取組のポイント

- フィリピンと日本の文化的な結びつきを強化することを目的として、両国の生徒間でオンラインによる文化・言語交流プログラムを実施。
- プログラムを通じて、文化に関する議論を行い、両国の異なる文化的側面への理解を涵養。

### 任用団体の基本情報

人口：2,537,860人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 32人 (CIR) 2人

学校数：中学校4校、高等学校46校、特別支援学校12校

### 取組の背景・課題

この取組は、フィリピンの高校・大学等で勤務経験があったJET-ALTが発案・企画したものであり、生徒に生涯学習の機会を提供し、フィリピンと日本の絆を深めることを目的に実施した。また、このプログラムは、JET-ALTが現地と連携を図ることで、日本の生徒がフィリピンの生徒と交流し、互いの文化的な共通点や相違点を探るための場としても機能した。

### 取組の内容

取組の内容は、以下のとおりである。

- 令和4年9月と11月の2回にわたって、生徒に文化の振興への参画を促すことを目的としたオンラインミーティングを実施した。参加者は在籍学年でグループ分けされ、プログラムのために15分程度のプレゼンテーションを準備することとされていた。
- 各参加校からの参加者の年齢は15歳～17歳だった。
- 各回、1時間程度の活動で、それぞれの国の文化や価値観について意見交換した。トピックは、言語、季節、食べ物、文化などだった。交流先の生徒から日本の四季について質問があり、お互い紹介した言語を用いて話してみる等、交流を楽しむ様子がみられた。
- 京都府立山城高等学校は、セッションの進行を行い、プログラム最終日又はそれ以降に参加者に配布する修了証を用意した。
- 両校の教員は、生徒を観察し、評価することが期待された。また、自らの裁量でセッション後に振り返りや評価を求めることができた。

## 取組の内容（続き）

取組を実現する上で困難だったことは、技術的な問題である。例えば、インターネット接続、ヘッドセットやiPadの供給などで苦慮した。今後も同様の交流を行う際には、技術的な問題が起こった際に十分に対処できる体制が必要だと思われる。

また、言葉の壁で生徒が苦勞する場面があったが、生徒達の事前の入念な準備と、意見交流時に教員が適宜学生をサポートすることにより、困難を克服することができた。



オンライン交流をしている様子①



オンライン交流をしている様子②

## 取組の成果・今後の展望

日本人とフィリピン人の生徒が出会うことで、文化の多様性をより深く理解し、信頼関係を築くために英語コミュニケーション能力を活用することの重要性を理解することができた。

参加した生徒からは、「フィリピンの文化を知ることができる貴重な機会だった」「英語で自分の言いたいことが上手く表現できなかったのが残念だった」等の感想があった。

このような取組は、より長期的に、より多くの参加者を集めて実施することで、さらに発展していくと考えられる。また、より多くの生徒が英語コミュニケーション能力を向上させ、文化や言語の交流の手段を見出すきっかけとなることが期待される。

### 問合せ先

担当部署名：京都府教育庁指導部高校教育課

T E L : 075-414-5849

M A I L : koukyou@pref.kyoto.lg.jp

U R L : <http://www.kyoto-be.ne.jp/koukyou/cms/>

